

平成29年8月29日

基町の明日を考える会

広島市中区基町地区社会福祉協議会 会長 徳弘 親利 様

広島市中区基町連合自治会 会長 瀬戸口 寿一 様

広島県知事 湯崎 英彦

(地域政策局都市圏魅力づくり推進課)

広島市長 松井 一實

(市民局文化スポーツ部スポーツ振興課)

広島商工会議所会頭 深山 英樹

(産業・地域振興部地域振興チーム)

「広島市中央公園へのサッカースタジアム建設候補地撤回
申し入れ書及び質問書」に対する回答について

平成29年1月24日に開催された「基町の明日を考える会」で受領した「広島市中央公園へのサッカースタジアム建設候補地撤回申し入れ書及び質問書」について、同年2月28日に回答済みの内容も含め、別添のとおり回答いたします。

回答内容	頁
1 サッカースタジアムの必要性	1
2 中央公園広場が建設候補地に追加された経緯	2
3 居住環境等への影響と対応策について	5
4 中央公園広場について	9
5 基町地区のまちづくりについて	12

申し入れ書及び質問書に対する回答

1 サッカースタジアムの必要性

地元のプロスポーツチームであるカープやサンフレッチェ広島の活躍は、多くの県民・市民に誇りと喜び、夢と感動を届けるとともに、広島市の目指す「全ての人々が様々なスポーツに関わり、市民の笑顔であふれる『スポーツ王国広島』」の実現に大きく寄与し、さらに、まちの活力創出につながるものです。

カープについては、新しい活躍の基盤として新球場を建設したことが毎年の入場者数の増加につながっており、平成28年に25年ぶりのリーグ優勝を果たしたことで、広島のみならず大いに盛り上がりました。さらに、新球場の完成は、広島陸の玄関であるJR広島駅周辺の再開発を加速させ、スポーツ施設がまちづくりを先導した事例として高い評価を受けています。

サンフレッチェ広島についても、ここ5年で3回の優勝を果たし、多くの県民・市民の憧れの存在として、これからの広島スポーツ界を牽引するリーダーとしての役割が期待されており、その活躍に大きな注目が集まっています。

広島新たなシンボルとしてのサッカースタジアムは、広域的な集客効果を高めるなど、広島市ひいては広島県全体の活性化につながるものであり、さらに、サッカーを通じた地域交流や国際交流も期待できることから、サッカースタジアムの整備は、広島県及び広島市のまちづくりの方向性にも合致するものです。

こうしたことから、現在、広島県、広島市、広島商工会議所が一体となって、サッカースタジアムの整備に向けて検討を進めています。

2 中央公園広場が建設候補地に追加された経緯

サッカースタジアムについては、サンフレッチェ広島がリーグ優勝を果たしたことなどから、市民等の間にサッカー専用スタジアムが欲しいという機運が高まり、スタジアム建設の早期実現のために約37万件の署名が集まりました。

もともと、サンフレッチェ広島の関係者からの強い要望があった中で、署名であったことから、平成25年6月に、サンフレッチェ広島、広島県サッカー協会及び学識経験者などからなるサッカースタジアム検討協議会（以下「検討協議会」という。）を設置し、どこにどういったスタジアムを造るか、ということをしっかり議論することになりました。

検討協議会では、最初に、広島市内の9つの大規模用地等が候補地に挙がっていましたが、メリット、デメリットを検討する中で、中央公園広場、旧市民球場跡地、広島みなと公園、広島西飛行場跡地、広島広域公園の5つに絞り込まれました。

さらなる検討の結果、広島西飛行場跡地については、軌道系を持たないことなど、交通アクセスに課題があること、また、サンフレッチェ広島が本拠地として使用しているエディオンスタジアムがある広島広域公園については、今後、Jリーグの試合を継続的に開催するためには屋根掛けなどが必要となり、改修費が新設と同額程度になることや、アクセスに課題があることから、それぞれ候補地から外れました。

こうして、中央公園広場、旧市民球場跡地、広島みなと公園の3つの候補地に絞り込まれましたが、3つの候補地それぞれに課題がある中で、サンフレッチェ広島を含めたサッカー関係者が、アクセスが良いという理由で旧市民球場跡地を強く推し、経済界や学識経験者が、敷地が広く複合開発ができるという理由で広島みなと公園を強く推しました。

このため、候補地を一つに絞り込むことはできず、旧市民球場跡地と

広島みなと公園の2つを候補地とする提言が取りまとめられ、行政、経済界及び広島県サッカー協会に候補地の絞り込みが委ねられました。その際、広島県サッカー協会から、協会はスタジアム建設を要望している当事者であるため、候補地が決まるまでは検討メンバーから外れ、絞り込み作業は、広島県、広島市、広島商工会議所の3者で行われた旨の申し入れがありました。

その後、平成27年7月、広島県知事、広島市長、広島商工会議所会頭の3者は、広島みなと公園が、宇品地区を中心とした物流拠点に対する交通対策などの課題があるものの、ホテル等の併設による複合開発、スタンド下の有効活用やまちづくりの観点から優位であると判断し、2つの候補地に関する調査などを行っていました。

そうした中、広島みなと公園については、宇品地区を中心とした物流拠点に対する交通対策などの課題が指摘されていたことに加え、平成28年3月に、サンフレッチェ広島から、路面電車と路線バスによるアクセスでは時間を要することや、広島みなと公園に建設してもクラブ経営が赤字になることを理由として、使用する考えはなく、旧市民球場跡地に自ら建設したいという独自案が公表されました。

しかしながら、旧市民球場跡地については、敷地が狭く、観客の溜まり空間が確保できないことや、平成28年5月のオバマ大統領の歴史的な訪問により、未来志向で平和を発信していくにふさわしい場所として一層その重要度が増したと考えられることから、平和記念資料館から原爆死没者慰霊碑及び原爆ドームを見通す景観を重視しながら、次世代に引き継ぐべき地へと再生していく必要があること、そして、高さ制限を遵守し、景観を守るためには建設費が割高になることなどから、スタジアムを建設する上で大きな課題があります。

このような状況の中、スタジアムの主な利用者となるサンフレッチェ広島の方を良く確認するために、事務的な調整を経て、広島県知事、広島市長、広島商工会議所会頭の3者とサンフレッチェ広島会長との4者で意見交換を行うことになりました。

平成28年8月10日に1回目の、同9月14日に2回目の意見交換を行ったところ、検討協議会で絞り込まれた2つの候補地では4者が納得する結論を出すことが難しい中、その他の候補地について、検討協議会の検討過程を踏まえて、改めて再検討することとなりました。

その結果、検討協議会で最終段階まで候補地となっていた中央公園広場について、旧市民球場跡地と同等のアクセスを有し、敷地面積にも余裕があることから、高い評価を受けていたものの、検討協議会の意見集約の際に、旧市民球場跡地と広島みなと公園が強く推されたことから候補地から外れてしまったこと、さらに、サンフレッチェ広島の求める「中心部」の範囲内にあると言えることから、現在の2つの候補地を残しつつ、その他の候補地として追加することとし、広島県、広島市、広島商工会議所及びサンフレッチェ広島の4者が協力して検討することとなったものです。

3 居住環境等への影響と対応策について

(1) 騒音対策

施設規模や立地条件が類似する「ノエビアスタジアム神戸」や「市立吹田サッカースタジアム」などにおける対策事例について調査し、これらを参考に検討しました。

「ノエビアスタジアム神戸」は、市営住宅や保育園等が隣接しているほか、収容人数も我々が想定している3万人規模です。また、「市立吹田サッカースタジアム」は、J1で最も新しいスタジアムであり、住宅地が近い点でも類似しています。

両スタジアムでは、周辺環境に配慮し、①遮音性の高いコンクリートで構造体をつくる、②観客席全面を屋根で覆う、③観客席部分から屋外に通じる部分に防音性の高い扉やサッシなどを設置することで、騒音の抑制を図っています。また、21時以降の鳴り物を禁止し、サポーターに協力を依頼しています。

加えて、ノエビアスタジアム神戸では、スタジアム北側の病院等に配慮して、本来は北側のゴール裏に設ける地元チームのサポーター用の観戦席（サポーターズシート）を南側に移しており、市立吹田サッカースタジアムでは、スタジアム内の特定の区域（観客席部分）にのみ音声を伝え、音が広がりにくいスピーカーを採用し、演出音量についても十分な対策がとられています。

なお、一時的に大きな歓声などが発生することもあります。両スタジアムとも、周辺住民と施設の運営について協議をする場などにおいて、こうした騒音は問題となっておらず、これらの対策は一定の効果があると評価されています。

こうした結果を踏まえ、仮に中央公園広場にスタジアムを整備する場合は、騒音に関する基準を満たすスタジアムとしていくため、以下の対策を講じることが考えられます。

- ① 観客席全面を屋根で覆います。
- ② 防音性の高い扉やサッシなどを採用します。
- ③ 21時以降の鳴り物応援は禁止し、サポーターに協力を依頼します。
- ④ 地元チーム用のゴール裏観客席（サポーターズシート）は南側に設けます。
- ⑤ 場内アナウンスの音漏れを防ぐため、音が広がりにくいスピーカーを採用します。

（2）渋滞、違法駐車対策

他のスタジアムにおける対策事例の調査や、スタジアムへの来場手段等に係るアンケート調査を行い、これらを参考に検討しました。

渋滞対策として、他のスタジアムでは、スタジアム内に一般観客用の駐車場を設けず公共交通の利用促進を行い、自動車での来場を抑制しているほか、周辺道路に警備員を配置して送迎車の停車の抑制を図っています。また、違法駐車対策として、スタジアム周辺に警備員を配置して駐停車の抑制を図っています。

こうした対策事例を踏まえ、本年8月、スタジアム内に一般観客用の駐車場を設けないという前提で、県民等を対象に来場手段等に係るアンケート調査を行ったところ、自動車での来場者の割合が約15%となりました。この割合は、都心部の類似施設等での実績値に比べて小さく、渋滞対策として一定の効果があることが確認できました。

こうした結果を踏まえ、仮に中央公園広場にスタジアムを整備する場合は、以下の対策を講じることが考えられます。

- ① 公共交通の利便性が高い都心部に位置することから、スタジアムには一般観客用の駐車場を整備せず公共交通の利用促進を行うことなどにより、自動車での来場を抑制します。(自動車での来場者は、紙屋町など都心部の既設民間駐車場を利用することになります。)
- ② 周辺道路上での送迎車の停車を抑制するため、必要な場所に警備員の配置や柵の設置などを行います。
- ③ 基町住宅地区内及びその付近での違法駐車を抑制するため、必要な場所に警備員を配置します。

(3) 地元居住環境への影響に配慮した対応

他のスタジアムにおける対策事例の調査を行い、これらを参考に対応策を検討しました。

主な対策としては、住宅地内への自動車と観客の進入や観客の民地内の通り抜けを防止するために、警備員及び看板等を配置している事例や、スタジアム周辺でのゴミの投げ捨てる対策として、スタジアム出入口周辺でのゴミの回収、試合終了後の路上清掃などを行っている事例がありました。

こうした結果を踏まえ、仮に中央公園広場にスタジアムを整備する場合は、以下の対策を講じることが考えられます。

- ① 自動車の基町住宅地区内への不必要な進入を防ぐため、地区周辺に警備員を配置します。
- ② 観客の基町住宅地区内への不必要な進入を防ぐため、北方面（JR新白島駅、アストラムライン城北駅など）から徒歩でスタジアムに来場する人※については、必要な場所に警備員を配置して、国道54号の東側歩道に誘導します。スタジアムから北方面に帰る人の場合も同様です。

※ 来場手段等に係るアンケート調査の結果から、北方面からの来場者は、観客全体の2割程度と見込んでいます。

- ③ ピーク時の大量の歩行者を円滑に処理できるよう、国道54号及び城南通りを横断する歩道橋の設置を検討します。
- ④ 来場者によるゴミの投げ捨てを防止するため、スタジアム内でゴミの回収を徹底するとともに、スタジアム出入口周辺でもゴミの回収を行います。また、試合終了後の周辺歩道の清掃を徹底するなど、必要な対策を実施します。
- ⑤ 観客が試合前後にスタジアム近辺で騒ぐことがないように、警備員を配置するなどの対策を検討します。

(4) 小学校・保育園・幼稚園への影響に配慮した対応

Jリーグの試合は、一般的に平日昼間には開催されないため（平成28年度は、21試合中0回）、各施設の業務への影響は少ないと考えています。

なお、基町保育園については、保護者の送迎が平日の夜間や土曜日の開催時に重なることがあることから、園児の安全の確保や、送迎車両への支障の防止のため、保育園付近に警備員を配置するなどの対策を検討します。

なお、騒音対策、渋滞対策など居住環境等に係る対策については、それぞれ重要な課題であると認識しており、施設管理者と周辺住民が協議をするための場を設けたうえで、適切に対応したいと考えています。

4 中央公園広場について

中央公園については、平成25年3月に策定した「旧市民球場跡地の活用方策」において、それが持つ様々な特性を生かしつつ、3つの空間特性（にぎわいの空間、くつろぎの空間、文化を醸し出す空間）を備えたものとする事としてしています。

そして、中央公園の一部である中央公園広場については、芝生広場ゾーン及びスポーツゾーンとするイメージに沿って、活用方策を策定することとされています。

また、広島県と広島市が連携して本年3月に策定した「ひろしま都心活性化プラン」においても、この場所は、歴史・文化・スポーツ交流ゾーンの一部として位置付けられています。

こうした中で、中央公園広場は、景観に優れ、大人から子どもまで幅広く活用できる市民全体の憩いの場であるとともに、地震、津波及び大規模な火災の際の指定緊急避難場所としての機能を有するなど、市民生活においても、大変重要な役割を果たしている場所であると認識しています。

このため、仮に中央公園広場にサッカースタジアムを整備する場合であっても、こうした機能は維持する必要があると考えています。

具体的な対応の方向性等については、以下のとおりです。

(1) 広場利用者、小学校・保育園・幼稚園への影響に配慮した対応

仮に中央公園広場にスタジアムを整備する場合は、広場を利用される地域の皆様などへの影響ができるだけ小さくなるよう、施設配置等において、以下の対応が考えられます。

- ① 防火水槽等の既存施設への影響をできるだけ少なくしつつ、広場の利用のしやすさを維持することなどを考慮し、スタジアムを東側に寄せる配置を基本とします。このことにより、西側に広くオープンスペースを確保することができ、そこを引き続き、地域の行事や子どもたちの遊び場として利用することができます。
- ② 残ったオープンスペース（約4ha）の形状をどのようなものにするか（芝生とするか、更地とするか、遊具等を置くのか）については、今後、御要望や御意見をいただきながら検討します。
- ③ ビオトープなどの施設については、広場内で移転させることを含め、スタジアムの形状等に応じた整備等を行うことを検討します。
- ④ 加えて、スタジアムには、市民や地域の皆様に活用していただける機能を併せ持たせることも考えており、その活用方法について、今後、御要望や御意見をいただきながら検討します。

（2）指定緊急避難場所としての機能の維持・向上

近年に整備された他のスタジアムでは、施設内に非常用電源設備や雨水貯留槽、備蓄倉庫などの防災機能が整備され、災害時の避難スペースとして活用されるなど、地域の防災拠点としての役割を果たしています。

こうしたことを踏まえ、中央公園広場にスタジアムを整備する場合は、以下の対策を講じることが考えられます。

- ① 中央公園広場が、地震時等の指定緊急避難場所として引き続き機能を果たせるよう、一定のオープンスペースを確保するとともに、耐震性防火水槽の機能を維持します。
- ② トイレ等諸設備が整ったスタジアムを災害時の避難スペースとして活用するとともに、スタジアム自体が防災拠点となって地域防災に大きく貢献できるよう、施設内に備蓄倉庫等の各種防災機能を整備します。

【参考】 スタジアムの多機能化等について

スタジアムについては、試合開催日だけでなく、年間を通じて中央公園広場と一体的に利活用できるようにすべきであり、こうした取組は、周辺地域も含めた中央公園の回遊性の向上にもつながるものと考えられます。

そのため、スタジアムのスタンド下に生じる空き空間を有効活用して、多様な機能を発揮できるようにすることや、スタジアムの周辺の魅力を向上させるための整備等を行っていくことなど、スタジアムの多機能化等を図っていくこととしていますが、その具体的な内容については、今後、地域の皆様や有識者の御意見なども踏まえながら、検討していきたいと考えています。

5 基町地区のまちづくりについて

基町地区においては、少子高齢化による地域コミュニティの活力の低下や、空き店舗の増加に伴う商店街の衰退など、多くの問題が顕在化しており、地域と行政が協働して活性化に取り組むことが必要となっています。こうした中、基町住宅については、今後とも、建替えや補修等を適切に行いながら、地区の中心となる住宅街として維持・発展していくようにしたいと考えています。

また、平成25年7月に、地区の諸課題に対応するために基町住宅地区活性化計画を策定したところであり、同計画に基づき、次のような事業を進めていくこととしています。

(1) 若年世帯等の入居促進

平成29年7月現在、目的外使用によって、若年世帯3世帯、学生3人が入居しており、今後とも着実に募集を進めてまいります。これら若年世帯や学生を中心として、他の入居者と一緒になってコミュニティ活動を活性化させていきたいと考えています。

(2) 福祉・介護の拠点づくり

高齢化率や一人暮らし高齢者の割合が高い基町地区において、高齢者が安心して生き生き暮らせるまちづくりを進めるため、空き店舗へのデイサービスセンターの設置等に向けて取り組んでいます。引き続き、広島市の関係課が連携を図り、住民の方々の御意見を伺いながら、早期の事業者募集が行えるようにしていきたいと考えています。

(3) 基町小学校の教育活動の一層の充実

基町小学校においては、日本語学習教室や外国からの訪問者との交流活動を実施する国際理解学習など、多文化共生教育の拠点としての取組を進めてきています。こうした取組を踏まえながら、基町地区を

魅力ある住宅地とし、若年世帯等呼び込めるようにするために、基町小学校の教育力をさらに引き上げる必要があると考えています。

このため、「個に応じた指導研究校」に指定し、3・4年生の国語と算数を中心にした少人数指導や日本語指導を充実させ、基礎的学力の向上を図っています。また、「幼・保・小の連携の拠点」として、隣接する幼稚園・保育園との連携、交流を進め、小学校教育への滑らかな接続を図るための取組も進めています。さらに、多文化共生教育の拠点として、英語力の向上も図ります。

(4) にぎわい再生に向けた基町プロジェクト

現在、広島市立大学と中区役所が連携し、若者を中心とする創造的な文化芸術活動や地域交流を通じて、地区の魅力づくりや活性化促進の取組を行っています。今後、開設準備中の1施設を含む4つの拠点施設を活用して活動の幅を広げるとともに、取組内容のさらなる充実を図ります。

基町地区のまちづくりについては、上記以外にも、基町住宅地区活性化計画に基づく多くの取組がありますが、いずれの取組についても、その具体化に当たっては、住民の方々から御要望や御意見をいただきながら、安心・安全に暮らすことができ、活力とにぎわいのあるまちとなるよう取り組んでいきます。